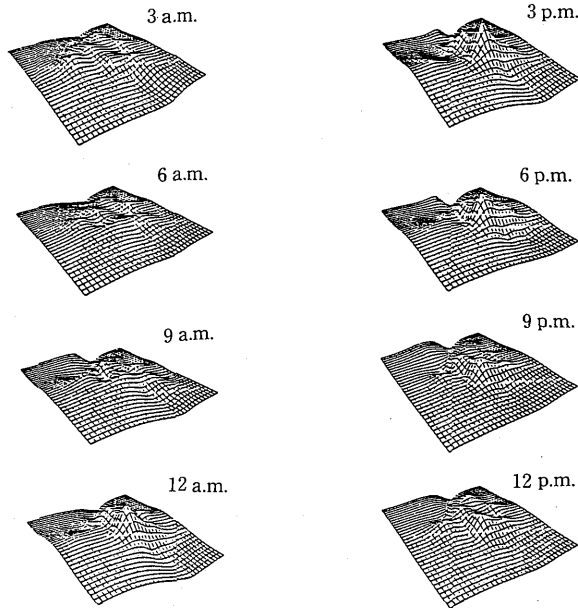


3. 地点特性の視覚化

地点特性の空間的な動きを理解するために、地点特性の曲面を構成する。方法としては、地点特性の推定値を補間条件として、エネルギー汎関数

$$\int_{\Omega} [\Delta u(x, y)]^2 dx dy + \lambda \int_{\Omega} [\nabla u(x, y)]^2 dx dy + k \int_{\partial\Omega} [u(x, y)]^2 dx dy$$

を最小にする $u(x, y)$ を求めるという、ある種の補間法を採用する。



予測制御研究系

Centered Newton Method

田 辺 國 士

連立非線形方程式

$$(1.1) \quad \begin{aligned} g_1(z) &= 0, \\ g_2(z) &= 0, \\ &\vdots \\ g_n(z) &= 0, \end{aligned}$$

の解法を考える。ただし、 $z \in R^n$ とする。 g_i を第 i 要素とする列ベクトルを $g(z)$ とし、その Jacobi 行列を $J(z)$ とする。このとき Newton-Raphson 法は

$$(1.2) \quad z^+ = z + nr, \quad J(z)nr = -g(z),$$

と書ける。ベクトル nr と独立なベクトル cd を

$$(1.3) \quad J(z)cd = -g(z) + \left(\sum_i |g_i(z)| / s^t(z) s(z) \right) s(z)$$

で定義する。ただし、 $s(z)$ は

$$s_i(z) = \begin{cases} 1, & (g_i(z) > 0) \\ 0, & (g_i(z) = 0) \\ -1, & (g_i(z) < 0) \end{cases}$$

を第 i 要素とする列ベクトルとする。このとき 'Centering direction' cd は Center Variety,

$$(1.4) \quad C = \{z : |g_1(z)| = |g_2(z)| = \dots = |g_n(z)|\}$$

に向かうベクトルとなる。

$$(1.5) \quad \rho(z) = (\sum_i |g_i(z)| / n) / (\prod_i |g_i(z)|)^{1/n},$$

と定義すると、次式が成り立つ。

$$\begin{aligned} (\nabla \rho(z), cd(z)) &\leq 0, & (\nabla \|g(z)\|_1, cd(z)) &= 0, \\ (\nabla \rho(z), nd(z)) &= 0, & (\nabla \|g(z)\|_1, nd(z)) &\leq 0. \end{aligned}$$

cd は $\rho(z)$ を減少させる方向ベクトルであり 'Newton direction', nd は 'guiding cone',

$$\text{Cone}(g, c) = \left\{ z \in R^n : \left(\sum_{i=1}^n |g_i(z)| \right)^n \leq c \prod_{i=1}^n |g_i(z)| \right\}$$

の境界に接し、 $\sum_i |g_i(z)|$ を減少させる方向ベクトルである。

これらを用いると、次の反復解法ができる。

Centered Newton 法:

$$z^+ = z + \alpha nd + \beta cd,$$

ステップ幅 $\alpha, \beta > 0$ は、条件

$$\begin{aligned} 0 &< \alpha \leq 1, \\ z + \alpha nd(z) + \beta cd(z) &\in \text{Cone}(g, c), \\ \|g(z + \alpha nd(z) + \beta cd(z))\|_1 &< (1 - \epsilon) \|g(z)\|_1, \end{aligned}$$

の下で α を (近似的に) 最大にするように β を決める。

ステップ幅を merit function

$$\mu(\delta, z) = \left(\sum_i |g_i(z)| \right)^{n+\delta} / \left(\prod_i |g_i(z)| \right), \quad (\delta > 0),$$

を近似的に最小化するように決めてもよい。

$J(z)$ が特異になる場合には (1.2), (1.3) で決まる nd と cd の代わりに

$$\begin{aligned} (J^t(z)J(z) + \lambda I)nd^*(z) &= -J^t(z)g(z), \\ (J^t(z)J(z) + \lambda I)cd^*(z) &= -J^t(z)P(z)g(z), \end{aligned}$$

で決まる nd^* と cd^* を用いる。ただし、

$$P(z) = I - s(z)(s(z))^t / s^t(z)s(z),$$

$\lambda > 0$, とする。これを Modified Centered Newton 法と呼ぶ。